

令和4年度 シラバス

地歴公民 科目(倫理)

| | | | |
|----------|----------|-----------|------------------|
| 単位数 | 2 単位 | 学科・学年・学級 | 普通科3年文系選択者 |
| 教科書(出版社) | 倫理(東京書籍) | 副教材(出版社)等 | 最新図説倫理2022(浜島書店) |

1 学習の到達目標

| |
|--|
| <p>1. 青年期の自己形成と人間としてのあり方生き方について、理解と考えを深める。 2. 将来の日本社会をささえる市民として求められる良識と態度を養う。 3. 各自の人生観、世界観を築くために必要な基本的理解をやしなうとともに、様々なテーマにそって考えることを通し、思索の力や表現する力を養う。</p> |
|--|

2 学習の計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価方法 |
|-------------|----|---|--|--|---|
| 1 学 期 | 4 | 青年期の課題 と自己形成 人間としての 自覚 | 人間性の特質 青年期の意義 | ・人間の本质を生物的、心理的側 面からアプローチする。 | 調査評価・課題 追求学習・課題 プリント・ノートへ の取り組み状況 の総合評価 |
| | 5 | | 青年期の課題 と生き方 | ・自己理解の課題を具体的にみつ め考察する。 ・幸福と生きがいについて考える。 | |
| | 6 | | 哲学と人間 宗教と人間 | ・先哲の歩みとその思索内容の基 本にふれながら、より良く生きるた めの主体的な思索が今も昔もヒト にとって不可欠であることを認識 する。 | |
| | 7 | | 芸術と人間 | | |
| 2 学 期 | 9 | 国際社会に生 きる日本人の 自覚 現代を生きる 人間の倫理 | 日本人の精神 風土 | ・日本人の精神風土の特質と形成 について、稲作文化とその自然 観、仏教・儒教、西洋思想の日本 的受容など多面的な関連から概 観する。 | |
| | 10 | | 外来思想と日 本の伝統思想 | | |
| | 11 | | 西洋思想と日 本人の近代化 | ・国際社会での日本国家の特質に ついて、外交・経済など具体的な 側面から考える。 | |
| | 12 | | 国際社会に生 きる日本人の 自覚 | | |
| | | | 人間の尊厳 民主社会の倫 理 新たな人間像 の模索 自然や科学技 術と人間のか かわり | ・現代の特質と若者をとりまく社会 の状況をとらえなおし、諸課題とそ れらの関連性について考察する。 | |

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価方法 |
|-------------|-----------------|-----------|-------------|---|----------|
| | 12 | | 民主社会の成熟のために | ・人間尊重の思想、合理的精神、社会契約の思想がどのように育まれてきたかを西洋の歩みのなかにとらえる。 | 1学期に同じ |
| 3 学 期 | 1 | 現代の課題を考える | 生命倫理 | 「生命」、「家族」、「情報社会」を軸に、日本社会がかかえている特質と課題を、資料や映像をまじえながら考察する。 | 1、2学期に同じ |
| | 環境と環境倫理 | | | | |
| | 変容する家族 | | | | |
| 2 | 情報社会の中の人間 | | | | |
| 3 | グローバル化する社会の中の人間 | | | | |
| | | | 豊かな社会とは何か | | |

3 評価の観点

| | |
|------------|---|
| 関心・意欲・態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・思想や社会のしくみについて、関心を高めることができたか。 ・意欲的に授業、課題に取り組んでいたか。 ・グローバル社会に主体的に生き、行動する態度を養うことができたか。 |
| 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな思想について、歴史を関連させて把握することができたか。 ・自ら課題を見いだすことができたか。 ・哲学的思考方法を理解し、分析・考察する方法を身につけることができたか。 |
| 観察・資料活用の技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・分析、考察の過程や結果を、適切に表現する方法を身につけることができたか。 |
| 知識・理解 | <ul style="list-style-type: none"> ・思想の変化について、基本的事柄や探求の方法を理解し、身につけることができたか。 |

4 評価の方法

| |
|--|
| 関心・意欲・態度、思考・判断・表現、観察・資料活用の技能及び知識・理解の4観点から総合的に評価する。 |
|--|

5 担当者からのメッセージ

(確かな学力をつけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・講義・作業学習・視聴覚学習などさまざまな形態の授業を行います。これらの授業を自分で統合して理解していくことで、力が身につけていきます。授業を大切にするとともに、少しでも自分で学び考えることをしてください。 ・多くの書籍、新聞などを読んでください。 |
|---|